

➤ 17日 土曜

哀歌



5:15 私たちの心から喜びが消え、踊りは喪に変わりました。

5:16 冠も頭から落ちました。私たちは、ああ、罪ある者となりました。

5:17 このために、私たちの心は病みました。これらのために、目は暗くなりました。

5:18 荒れ果てたシオンの山の上を、そこを狐が歩き回っています。

5:19 【主】よ。あなたはとこしえに御座に着かれ、あなたの王座は代々に続きます。

5:20 なぜ、いつまでも私たちをお忘れになるのですか。私たちを長い間、捨てておかれるのですか。

5:21 【主】よ、あなたのみもとに帰らせてください。そうすれば、私たちは帰ります。昔のように、私たちの日々を新しくしてください。

5:22 あなたが本当に、私たちを退け、極みまで私たちを怒っておられるのでなければ。

14節までは主に惨状を訴えるのですが、ここでは「罪ある者となりました。」と、その原因がどこから来るのかを告白しています。それまでは罪を認めずにいたものであっても、ここまで主から見放されるならば、主の十戒にあるように罪を犯した者を認めざるを得ないということです。

これは主の厳しさを感じざるを得ないところですが、しかしそこにこそ主の慈しみの始まりがあります。私たちは主の守りや回復というものが、単に自分の都合の良いように事が進むというのではない、その真理を知る必要があります。主の恵みは主の主権の中にあるのです。ですから、私たちが主を主としてあがめて従うとき、悔い改めるべきことは悔い改めるとき、主の主権が私たちの内にも回復して、主の勝利が表れるのです。

そうして19章からあるような主の力が表され、「あなたのみもとに帰らせて」くださるとともに、主の恵みが回復するのです。

主の憐みを求めるならば、主の主権を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

